

創造・参加・実践
No.605

最新のJR西労組運動をチェックしよう!

JR西労組ホームページ

http://www.jrw-union.gr.jp

QRコードでダイレクトニュースを登録して下さい



労働協約改訂交渉や春闘等の
JR西労組運動の情報を
文字ニュースとして配信します。

※wjru.comをドメイン指定して下さい。



西日本旅客鉄道労働組合

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号

西 阪 急 ビ ル 9 階

TEL:06-6375-9869代 JR071-7155代

(FAX)06-6373-4133 JR071-7151

発行責任者 荻山 市朗

編集責任者 宮野 勇馬

「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」開催 福知山線列車事故から13年

働く者の全員参加で 職場から安全を確立しよう!

2018年4月25日、JR西労組は大阪市内において「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」を開催した。冒頭、出席者全員で黙祷を捧げ、大原記念労働科学研究所の酒井氏から基調講演を受けた。その後、本年4月に策定された「安全考動計画2022」について、中央本部上村書記長から報告があり、また、昨年の9月から10月にかけて、資金実態調査とともに実施した「安全の取り組みに対する意識に関する調査」の結果について、宮野政策・調査部長から報告があった。

JR連合加盟単組およびJR西日本連合のグループ労組の代表者を含めた約350名の出席者全員で、集会アプリルを採択し、改めて安全確立に向けて取り組むことを強く認識しあつた。

2005年4月25日に発生したJR福知山線列車事故から13年が経過した。JR西労組は、この間、事故に対する反省と教訓を胸に刻み、安全確立を最優先課題に位置付け、運動を展開してきた。

しかしながら、昨年12月には新幹線重大インシデントを発生させ、この間の取り組みが必ずしも十分ではなかったことが明らかとなった。

また、事故後に入社した組合員もすでに4割を超えており、二度と悲劇を繰り返さないために、事故を知らない世代に、事故の悲惨さと教訓を伝えていくことの重要性も年々高まっている。

こうした認識にもとづき、JR西労組は、安全確立にむけた決意を確認する場として、今年も4月25日に「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」を開催した。

冒頭、福知山線列車事故でお亡くなりになられた方々のご冥福を、改めてお祈りするに、出席者全員で黙祷を捧げた。

主催者を代表して荻山中央執行委員長の挨拶、続いて来賓のJR連合・松岡会長の挨拶の後、大原記念労働科学研究所・所長の酒井一博氏から、「鉄道安全考動計画2022の実践と安全の確立への期待」と題して基調講演を受けた。

講演では、鉄道産業の「インフラ」として、運転業務を行う上では「脱単調」と「脱疲労」が重要であり、そもそもヒトは昼行性の動物であり、深夜に働くことが不得手であるとの前提に立った「働き方改革」が必要であるとの力強い提言を受けた。

最後に、労働組合に期待することとして、JR西日本のような大企業では、タテヨコの組織が複雑になってお

り、暗黙の権威勾配を生み、組織と個人のギャップが生じていることから、労働組合の長所である、系統・職種横断の組織であること、現場実態を知っていることを活かして、労働組合目線の視点・発想を会社に伝えていくことが重要であるとのご意見を賜った。



JR連合を代表して挨拶する松岡会長



酒井所長による基調講演



会場は多くの組合員で埋め尽くされた



追悼と安全のつどい 荻山委員長が参加

4月25日13時半より、尼崎市で、事故の遺族の方々「追悼と安全のつどい」が開催された。

集いでは、JR西日本・緒方副社長より「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」について説明の後、明治大学・向殿名誉教授が「安全を旨とする事業の経営のあり方を考える」と題して講演した。



優勝の福岡地本チーム

第10回 バレーボール大会 優勝 福岡地方本部 準優勝 大阪地方本部 第3位 金沢地方本部

「追悼と安全のつどい」に 荻山委員長が参加

4月25日13時半より、尼崎市で、事故の遺族の方々「追悼と安全のつどい」が開催された。

集いでは、JR西日本・緒方副社長より「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」について説明の後、明治大学・向殿名誉教授が「安全を旨とする事業の経営のあり方を考える」と題して講演した。

また、パネルディスカッションには、JR

村書記長から報告があり、JR西労組からの多くの指摘や提言が反映されていることが紹介された。

具体的には、ルールが守られない原因や背景に着目し、守りにくいルールがあるなどの問題意識から、趣旨が理解され、実効性あるルールとなるようメンテナンスするための①「現実的なルールを策定・維持するための仕組みの構築」、社員間の確認不足で事故や注

意事象が発生しており、「確認会話」も定着せず実効性が上がっていないことや、JR・グループ・協力会社との間やベテランと若手などの間で安全についても気兼ねがあるという実態を踏まえ、航空業界のアプリケーションの取り組みに学

び提起した②「相手の組織や立場にかかわらず「確認し合う」コミュニケーションスキル」の取得、労働力不足の深刻化を踏まえ、危険作業を削減し、安心して働ける職場をつくるための③「機械化による作業の解消とシステムチェンジに向けた投資」などがあることが紹介された。

さらに、昨年の9月から10月にかけて、資金実態調査とともに実施した「安全の取り組みに対する意識に関する調査」の結果について、宮野政策・調査部長から報告があり、安全に対する意識は引き続き高いレベルにあるものの、一部で課題もあり、解決に向けてこれらも継続的に取り組む決意が述べられた。(※ア

裏面参照) 集会后は、中央執行部メンバーで事故現場献花行動を行った。現場マンションは、大きな屋根に囲まれ大きく様変わりしており、事故の風化防止を改めて心に誓い合った。

福岡地本が初の栄冠! JR西労組バレーボール大会

JR西労組「第10回バレーボール大会」が、岡山

西労組より初めて荻山委員長が参加し、「安全は労使共通の課題。組合員は主体的に安全を作り上げる姿勢で取り組んでいる」といううえで、「現場の視点からチカラ・提言機能を発揮したいなど、JR西労組の役割と決意を述べた。

討議では、「JR西日本安全フォーアアップ会議」のメンバーを務めた遺族の方々から、「加害企業と被害者の間に事故の風化はあり得ない」と、厳しい認識が示されるとともに、「計画はできたが、問題はこれをいかに実行していくか

大会に参加された組合員の皆様、準備をしてくれたいた岡山地本の皆様、大変お疲れ様でした。